

平成18年度中学校区小中一貫教育中間報告会

(第 四) 中学校区

平成18年4月1日～9月30日

1 実践内容等

| 日 時 | 場 所 | 実践内容等 | 対 象 |
|----------------------------------|-------|---------------------------------|--------------------------------|
| 毎週木曜日(計10回) 4月～7月 | 北小学校 | 小3・4ピア・サポート訓練 | ・小3・4児童 |
| 毎週月曜日(計10回) 5月～9月 | 第四中学校 | 中1ピア・サポート訓練 | ・中1生徒 |
| 5月 8日(月) | 第四中学校 | 小中合同指導案検討(中1国語) | ・小中職員 ・市教委指導主事 |
| 5月14日(日) | 第四中学校 | 第32回体育大会 | ・小学生自主参加 |
| 5月17日(水) | 北小・四中 | 第1回 かけ橋の日 | ・小中職員 |
| 5月19日(金) | 第四中学校 | 府中市小中一貫教育検討会議 授業提案(中学 国語) | ・中1生徒 ・小中職員 |
| 5月29日(月) | 第四中学校 | NHK山口 ピア・サポート取材 | ・中1・2年生徒 |
| 5月31日(水) | 北小学校 | 小中合同研修 ピア・サポート訓練について | ・小3・4児童 ・大学助教授 |
| 6月 7日(水) | 第四中学校 | 小中交流授業研究(中2年数学) | ・小中職員 ・市教委指導主事 |
| 6月13日(火) | 第四中学校 | 福山市立走島小・中学校 来校 国研の指定について | ・中学校職員 |
| 6月14日(水) | 北小学校 | 小中交流授業研究(小1 算数) 問題解決的な学習について | ・小中職員 ・大学教授 |
| 6月19日(月) | 第四中学校 | インターナショナルデー(英語) 小6・中1異年齢交流 | ・小6・中1児童 生徒, 市内 ALT |
| 6月20日(火) | 北小・四中 | 第2回 かけ橋の日 | ・小中職員 |
| 6月27日(火) | 北小学校 | 小中合同事前研究(中1 理科) | ・小中職員 |
| 6月29日(木) 6月30日(金) 7月 3日(月) | 北小学校 | 教科専門性活用(体育) 小学校水泳指導 | ・小学校低中学年 ・小学校高学年 ・小学校低学年 |
| 7月 5日(水) | 第四中学校 | 小中合同授業研究(中1 理科) | ・小中職員 ・県教委指導主事 |
| 7月 6日(木) | 第四中学校 | 小中連携部活動体験 | ・小6児童 |

| 日 時 | 場 所 | 実践内容等 | 対 象 |
|----------|-------|---------------------------|-------------------|
| 7月19日(水) | 北小学校 | 中2・小1国語異年齢交流 | ・中2・小1 児童生徒 |
| 8月4日(金) | 福山大学 | ピア・サポートアンケート分析 にかかわる研修 | ・小中職員 |
| 8月24日(木) | 北小学校 | 小中合同事前研究(小5 国語) | ・小中職員 |
| 8月30日(水) | 第四中学校 | 小中合同研修 ピア・サポート中間報告 | ・小中職員 ・大学助教授 |
| 9月6日(水) | 第四中学校 | 小中交流授業研究(中3 社会) | ・小中職員 ・大学教授 |
| 9月13日(水) | 北小学校 | 小中合同授業研究(小5 国語) | ・小中職員 ・市教委指導主事 |
| 9月14日(木) | 北小・四中 | 第3回 かけ橋の日 | ・小中職員 |
| 9月24日(日) | 北小学校 | 北小学校運動会 | ・中学生自主参加 |

■については小中合同研修

第四中学校区小中一貫教育検討会議企画委員会 月2回の実施

第四中学校区小中一貫教育検討会議事務局会 随時実施

成 果

- 1 小中をつなぐ一貫性ある指導法の研究(問題解決的な学習の授業)
 - ・ 児童・生徒の思考力・表現力を育成するという共通の目標に向かい,同じベクトルで問題解決的な学習を軸とした授業研究を実施した。
 - ・ 小中相互の授業観察,指導案検討を行う中で,目標を達成するための手だての工夫など,一緒に授業を作っていく視点で話し合いを深めることができた。
 - ・ 小中合同の教材研究,指導案検討をする中で,学習課題の工夫,児童生徒の反応を想定しての学習展開など,中学校では問題解決的な学習の展開を意識した指導案の作成を試みることができた。
- 2 学びへの意欲を高める研究(ピア・サポート精神を生かした取り組み)
 - ・ ピア・サポート訓練で培ったスキルを異年齢交流,学年縦割り活動など,日常生活の中で生かすことで,訓練を受けていない児童生徒のスキルも上げることができた。
 - ・ 昨年までの大学生によるリーダーではなく,小・中職員によるピア・サポート訓練を実施することができた。また,福山大学での研修をふまえ,アンケート分析も小中職員により実施することができた。

課 題

1 小中をつなぐ一貫性ある指導法の研究（問題解決的な学習の授業）

- ・ 「問題解決的な学習」の展開が難しい教科もあり，各教科で（学習課題の立て方，発問の工夫，板書計画など）どのように進めて行ったら良いかさらなる工夫と研究が必要である。
- ・ 問題解決的な学習の展開には，自主学習との関連も考えていかなければならない。
- ・ 学年間のカリキュラムを考えた指導（既習内容）を意識的に行っていく。

2 学びへの意欲を高める研究（ピア・サポート精神を生かした取り組み）

- ・ ピア・サポートのスキルを意識した日常の指導を，小中ともに全職員で進めて行くことが大切である。
- ・ 自己効力感，自尊感情，社会性の数値は向上したが，固定した友人関係，固定した見方を解きほぐすまでにいたらず，日常生活への普遍化が必要である。